

ユタのノート

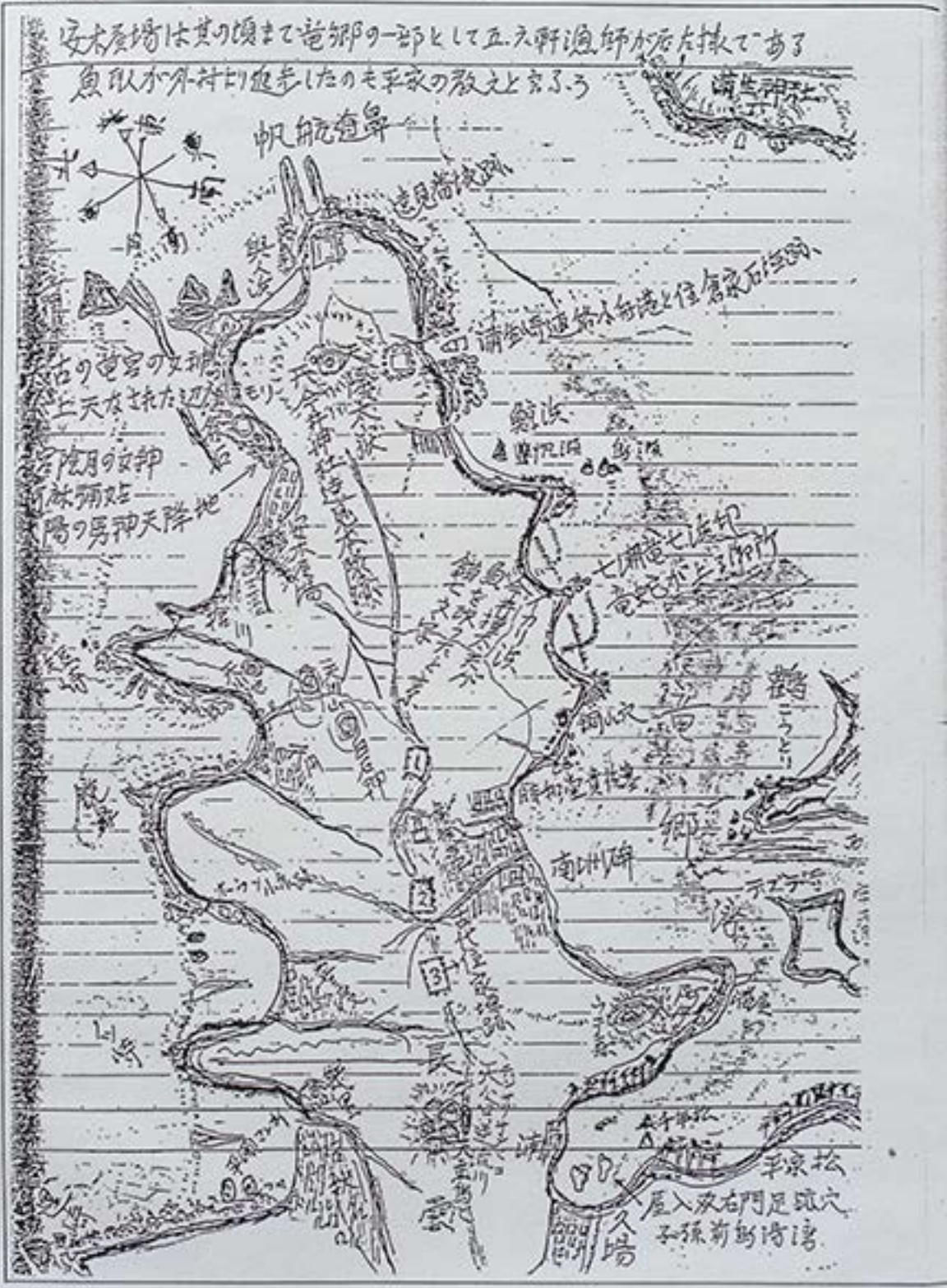
(阿世知照信記)

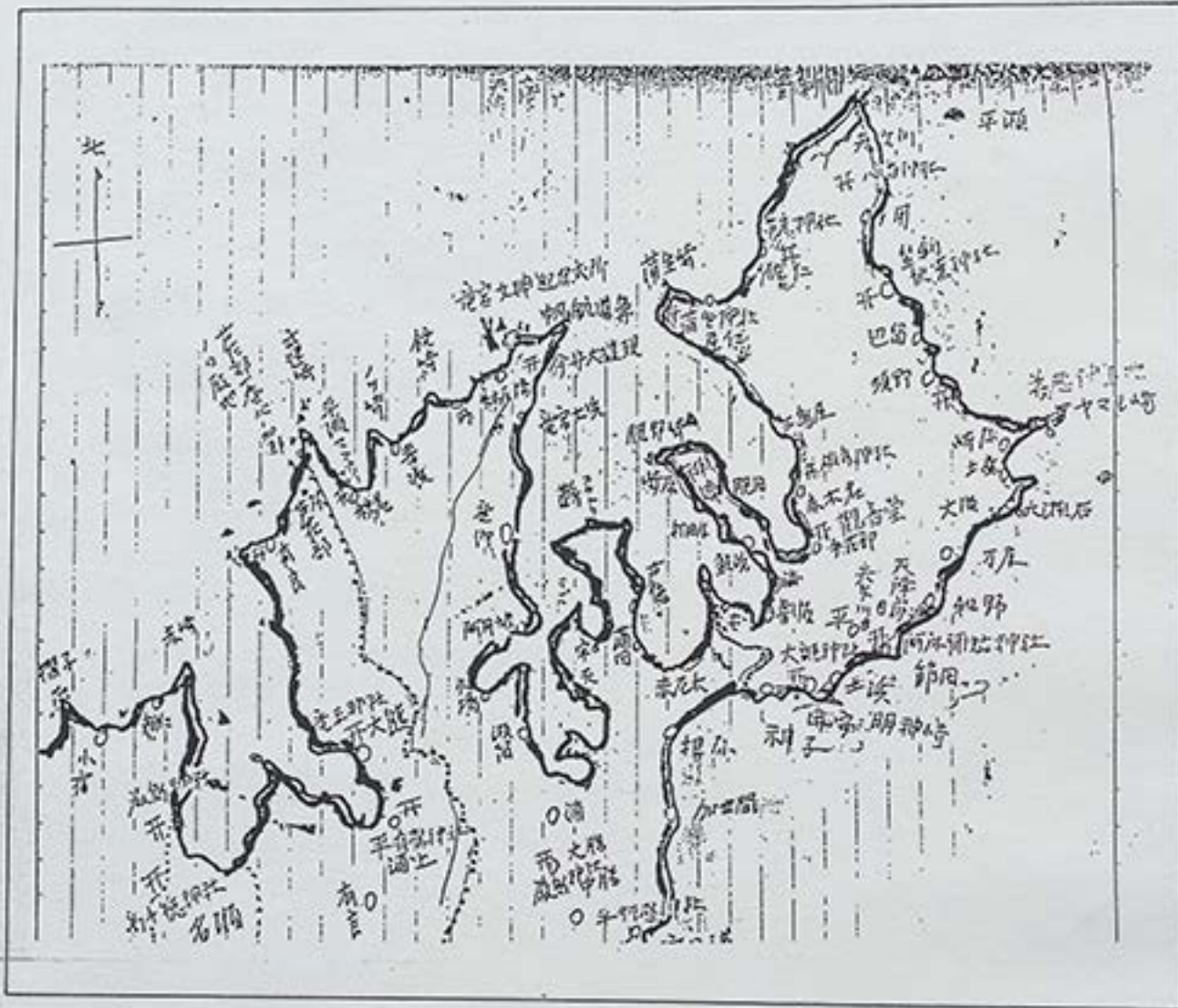






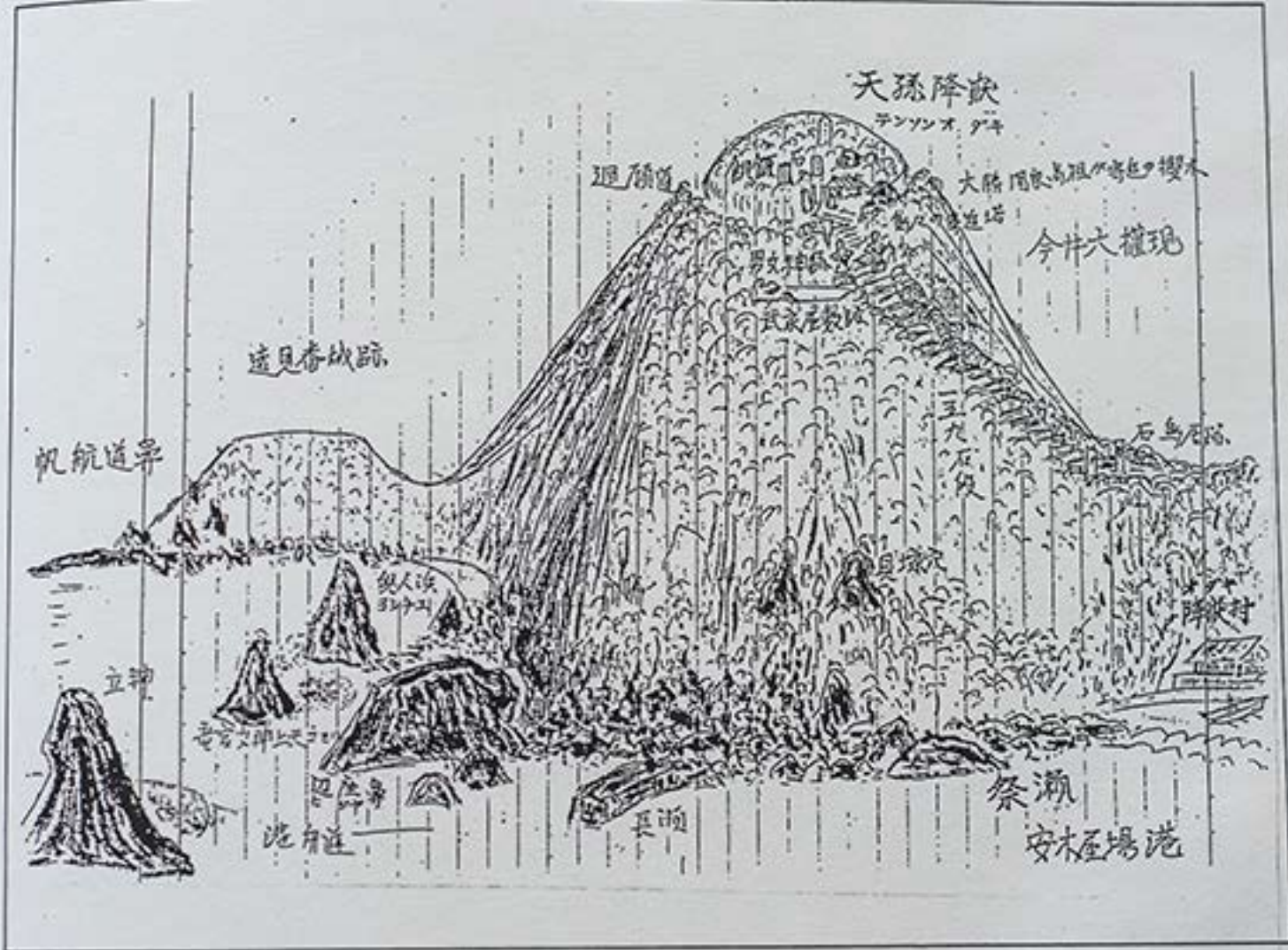








NO 4









天孫降臨阿麻彌神境  
今井大權現神法但依  
阿世知照信

太陽神

陰月神





奄美神道生詞巻郷並刺方面生布式の一部 (古儀)

天文め兼馬うしとせうられてい  
 エタ壺子やあ  
 おし銀金鞍やうち暗れてい  
 前鞍や太陽め形どよう  
 後鞍や卯月形どよう  
 内鞍や天女が清なリゆんよう  
 注ぎどう裏とんどう  
 錦め糸たをながよう  
 右リあぐんや胡蝶形どよう  
 左リあぐんや靴尺どよう  
 うんた口割はせりい  
 右リ手や白銀口とる涙口どよう  
 左リ手や糸たすななりゆんよう  
 あがんが美うさめよう  
 神の道系馬ぬ道どよう  
 足音鳴と瓦踏と鈴鳴と  
 潮満意とどう清神波下りて  
 一め潮花や清もられてい  
 七め潮花や清もられてい  
 冠もて冠も美うく  
 取りん取り美うく  
 七め潮花や上られてい  
 汝場願は立てられてい  
 月ぬ腰は立てられてい  
 神が子や生えりゆんよう  
 ①に続く





天孫降嶽阿麻彌神境  
太古竈宮太陽男神陰月女神迎儀式



今井大權記  
神記

天降呼前上興式

NO 8

新文の女卯おのりかき身は  
安木尾湯海女



1027



NO 8

新宮の女御お世呼寄式祭壇  
安木屋場海殿







# 今井大権現

22

Page

切倒された松本神山の祟り

松本を切倒されてまもなく部落は台風の  
返風(南西)と共に竜巻が襲い殆ど破壊  
され舟は十一隻も部落や二三百米を離れ  
た所まで巻上られ大破となつた  
他村の人々は神山の本を賣つた罪だと  
噂された年代もあり



昭和二十二年頃迄  
と並んであった松本



## 平家松の伝説

平家松とは当時戸口本城より今井大権現迄に道の東方側に約五間尺の間隔で植られ天孫降誕神境に平家再興と病没息災合戦勝利と色々な祈願が通られるように心深く胸涙悲しみを込めて植えた又源氏が攻寄せ合戦ともなる時は攻所にもなり現在大勝浦間瀬留久場阿丹崎間は松並木道と残り弟元合戦上陸良港に当る瀬留久場阿丹崎方面の海の上道は特に途間なく植えたと言伝う

これぞ平家松と言ふ

敗戦後袖が存在しなから敗れたとか老立枝もありと戦後若い部落資金達の名に合話の結果秋名村の某氏に賣り餅臼用として切出れ石段は破れ哀れ平家松の今も残る腐切口●

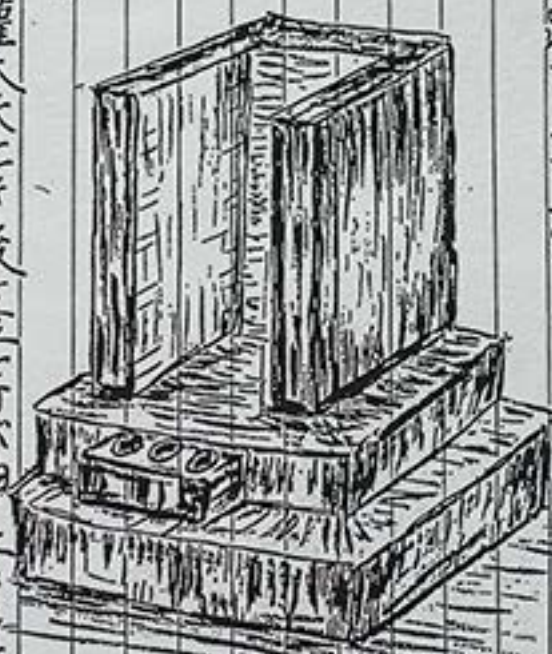


一五九の石段

石の鳥居跡



帝の愛人安久里加那の母君は疏疎王貴の  
 関大君或は豊玉姫雲上大親頭親とを依り  
 竜郷竜家や女木屋場の岡江家の高祖とを  
 依る碑跡が權大夫と共に神社の楹上横に  
 現在跡がされてある



若君權大夫と其後薩藩が神社を築き祀  
 されしその頃より降伏神境は今井大權現  
 と言ひ變る

しかし安ホ屋場の東方部落は現在を降伏  
 と呼び今井崎を帆航道鼻と叫び依つてある

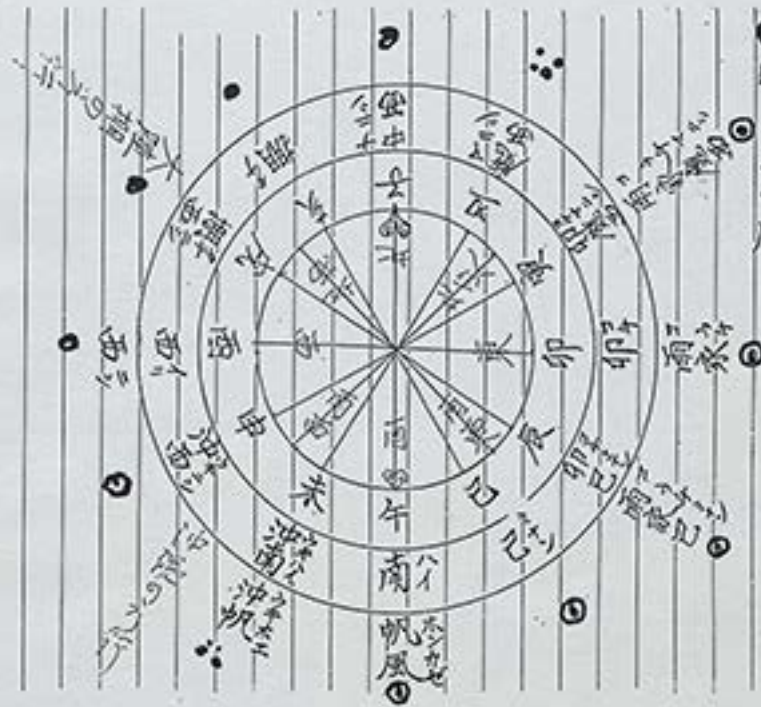
帆航道の頂なんて泣きゆん鳥くわ

安久里加那万代加那靈しやだろつ  
 すら靈しいだろつ

と歌い残されてある

平家時代より風方行呼名

● 雨の多い風  
● 晴の多い風



天孫降嶽阿麻彌神境



天孫降嶽神境祭祀今井大權現担依

天孫降嶽神鏡祭祀担依式

阿麻彌神境今井大權現

神法担依七瀬菟峰谷水殺

香寄立神明宮前家内安全

祀願立神法担依祈願法式

十二支歳刑没病災氣難遭

難患邪迴海山車船事故除

十二支方緯航海菟風強波

風迷紀避除菟願神法守護

陽陰星朔潮満引浮深海魚

各漁給安全大漁祈願祭

縁結子室恵(四)拾月拾(〇)京

子白三噫急如律令祈願

天孫降嶽大觀法存雲上大觀

現陽陰星雨流金菟時鳳

神法担依祭司阿世知照復

兩年昭和壬辰六年陰曆九月九日丁巳

神法祭祀寄立祈願式自書



今井大権現遺跡伝説

享保九年十月吉日奉寄進

男女二神



青銅の像の内に入來た唐国咒盟神法字

此山神靈の靈光北原南伏經西家兼  
東家年中云行火器品可致男

从天日姫標略意知律令内出法夫合日月隱如

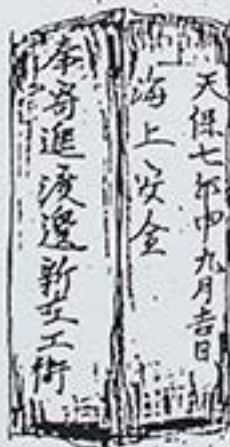
丸圖百三今



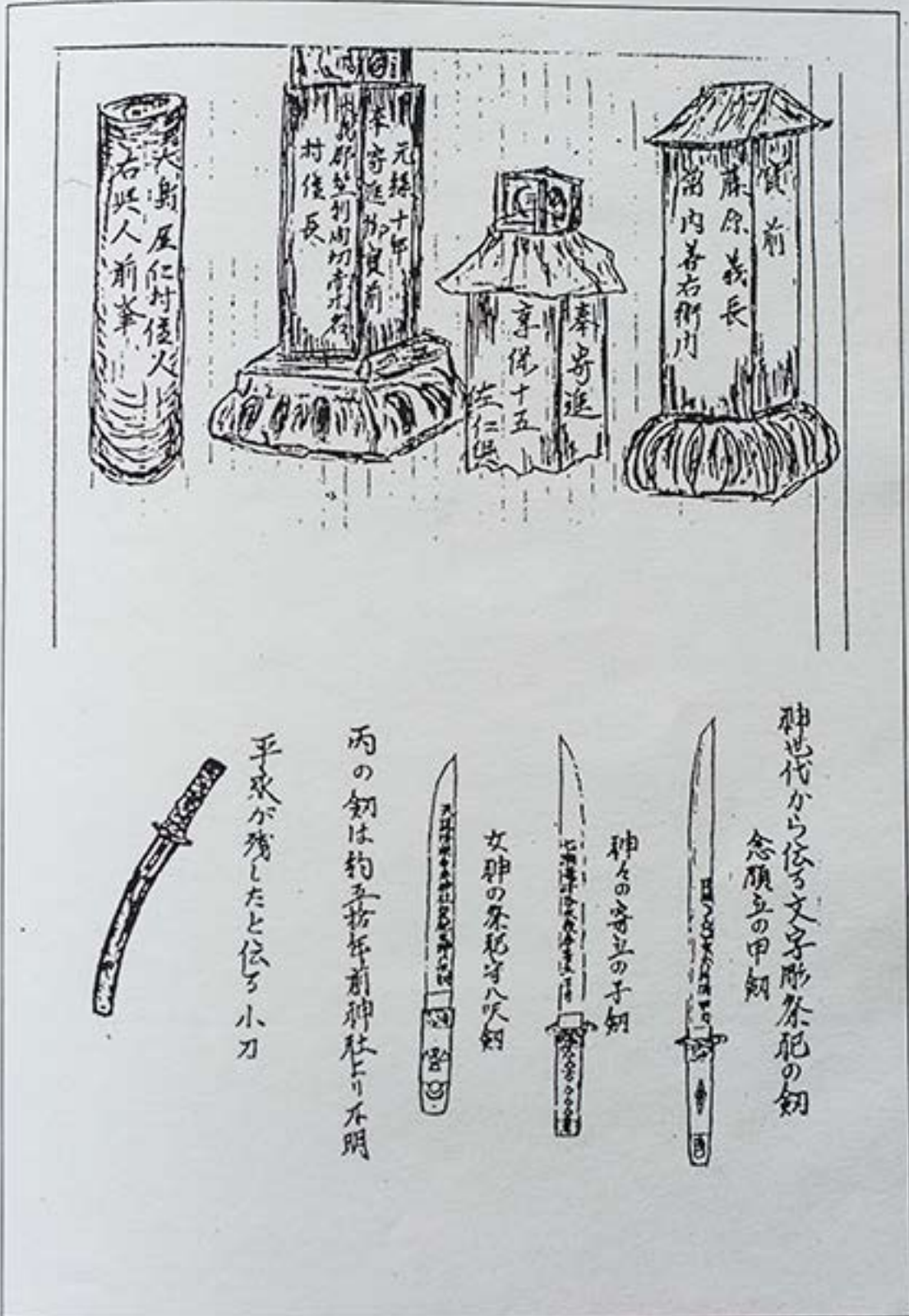
今井大権現の鏡

唐国の咒盟調法師が奉寄進されたとい  
伝る可銅の鏡寫也

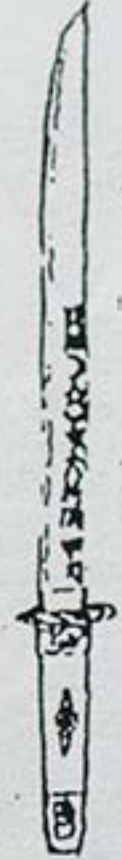
琉球の壺  
 竜郷田畑佐文主の子孫  
 田畑忠良氏(約な松年前)奉納された  
 首里城と芭蕉松浮彫焼の陶聖三組の寫







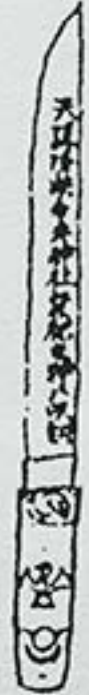
神代から伝わる文字彫祭祀の劔  
念願立の甲劔



神々の寄立の子劔



女神の祭祀守八咫劔

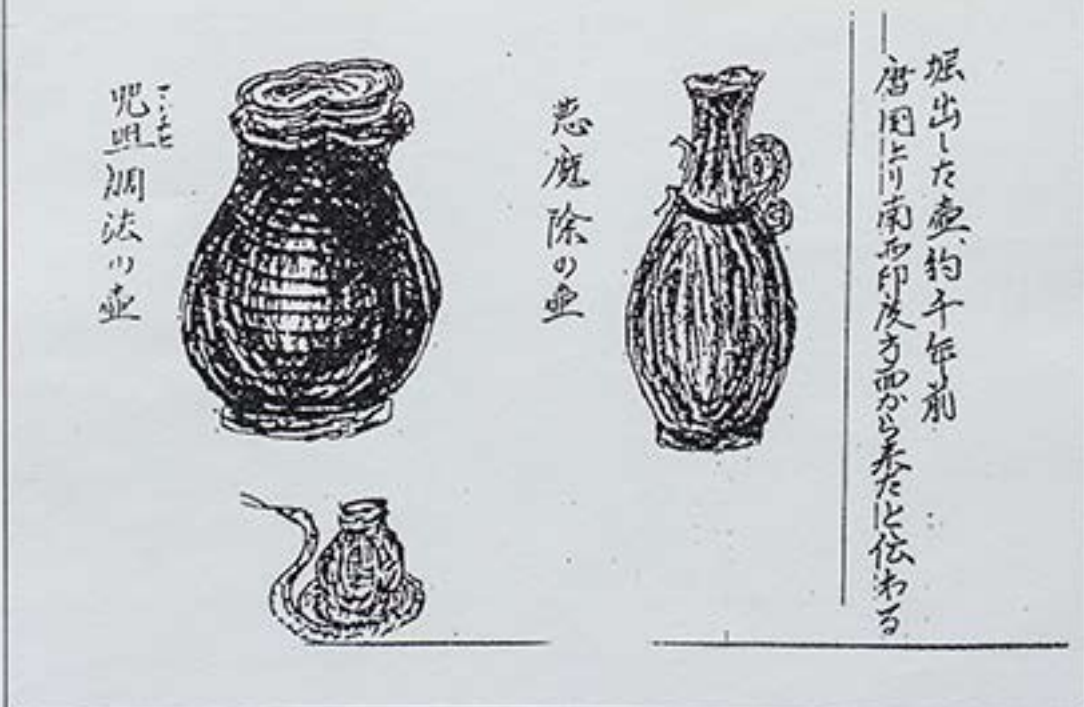


丙の劔は約五拾年前神社より不明

平家が残したと伝る小刀







三穗の神器

鏡と劔と勾玉 天照大神以来日本の  
皇位の徽証たる三穗神器はかに天叢  
雲劔(草薙劔)八坂瓊勾玉八咫鏡の  
筆頭たり天の岩戸にかくれまじした  
天照大神をお迎えせむと銅鑄せる  
鏡正体は伊勢皇大神宮にはひ奉る  
内侍所にましますは常神の御代に  
模されし形代の御神鏡なり

振り出された実物寫上記書

安徳帝の三穗の神器と伝はる謎の  
八咫鏡 今井大権現社の上神降嶽より

現在の鑑定では約八百年前の  
牡丹双鳥鏡で同室級であることは  
証明されるが



阿麻彌神境

今井大権現御神鏡  
安徳帝三穗神器と伝る八咫鏡





ユタ神は身の上は見やん」と言う例えがある。自分の身の占は判らな」と言うことと。自分の神より上は居な」と惚れることであらう。

熊鷹かなし実れば実る獲雨田の水に頭ら深く下るが如し。

祖父は神には深入りはするな」と言残された如何な神人でも生身の体だ。

神は神・仕事の時は神は忘れ病気は第一番に医者とは区別せようとの意味である。



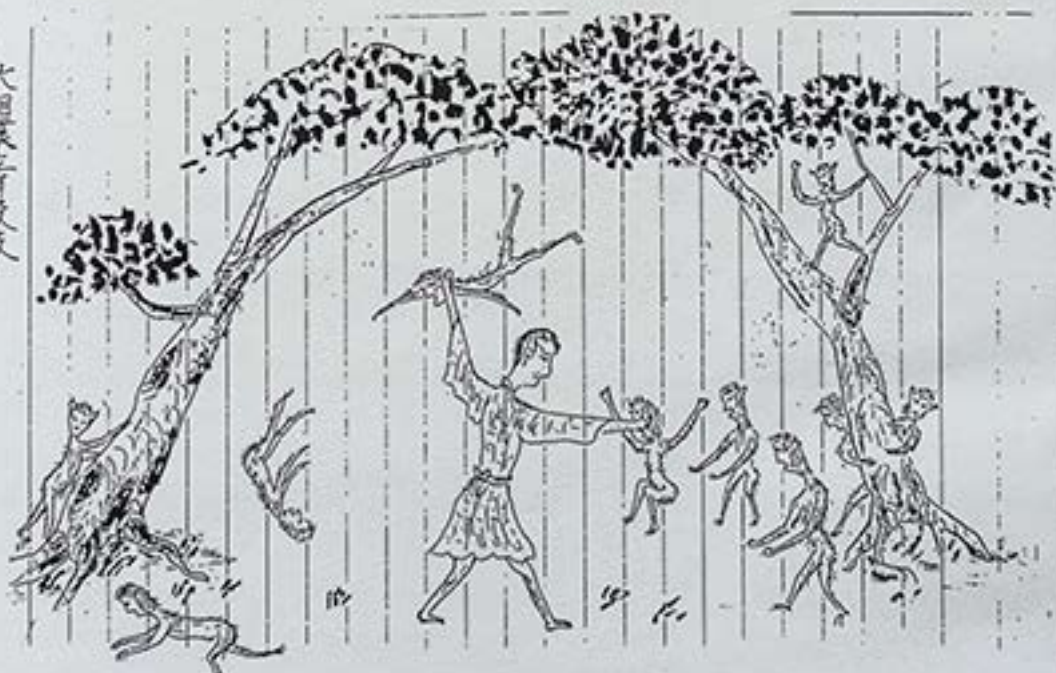
今井大権現

天孫降臨神境に現われた(想像図)

神霊二鳥の姿七色以上の大型の鳳凰



大相撲左耳投げ





帰つた後にキイムンも火玉を貰った恩返して八手魔体(タコ)に仇討が出来たと喜んで石の穴や谷の脇場所集り取つた具いで宴会を開き現在島の所々に具塚として残されてあるのも其の頃の具殻とも例え話が伝残されてある。

其の仇討が完了した頃からキイムンも海の恐いさを知り漁火で具取や海岸附近であまり見当らなくなつたと言つ



柔八手足巻寝技と  
 墨液を吹き目を  
 くらす  
 ハツテマタイ  
 タコの八手魔体の術

漁火の思返してタコに仇討(キイムシの性質)

かねては正當で人間に自から進んで被害を  
もたらす事は少ない

陰曆の月五月九月の神月、三日七日ナリ日月  
頃には多く出廻ると言ふが一定しない

特に夜の漁火で貝取がすまて潮時になると  
火を貰いに夜道で人間が竹筒の火や提灯を

付けて通るのを待ちその火玉を引抜いて行く  
その時火がホミと音を出して下に火玉がたれ落

ちると言う、昔或る人が夜の漁火業がすまて  
海岸に下る途中歩くと前を暗が横切つたり

漁火がホミと落ちるのを感付き憤て居るその  
人は足を止め火くも貰いガイモネは出さずイモシと

言ふと感謝の印が正体を現わし御針儀をしながら  
う頭うづの当りから出る水玉のようなヨダレに火を貰

い押し山の方面に去る行くのを見ると青火とな  
り七ツナトリレのように青火が次々に揚され

谷から山の上方面になると何百と火玉の数が飛  
ぶように廻りながら仲間によつたと言ふ

子満頃になると海岸に下りて貝取をすまその時  
タコ(八手魔体)を見付ると大敵で火玉を貰つ

た人に御礼の意が多数のキイムシが吹々々々を  
見付時公に奉るその人はテルの山盛大漁し喜ぶ

帰つた後にキイムシも火玉を貰つた思  
返して八手魔体(タコ)に仇討が出来たと  
喜んで石の穴や谷の脇場所脇に集り取つ  
た貝いで宴い会いを開き、現在島の所々に  
貝塚として残されてあるのも其の頃の  
具殺とも例え話が伝い残いされてある。

其の仇討が完了した頃からキイムシも  
海の恐いさを知り漁火で貝取を海岸  
附近であまり見当らなくなつたと言ふ



乗八手足巻寝技と  
墨液を吹き目を  
くらます

タコの八手魔体の術

















# ユタ

ユタとは、東美諸島や沖縄諸島、先島諸島（八重山・宮古）の巫女のことである。なかには男性ユタもいる。いまも「ものしり」として東美では、一部世民の間で支持されている民間信仰の一つだ。

左澤太は「保曾奴加奈之」と紹介して、火の神、木神、土神、金神、水神、茶神、七神、門神等を祭る。（中略）男女共に多し。（中略）ノロケメとは不同。カソナカナシは法師也」と、ノロとユタの違いを指摘している。

ノロとユタは、祝行爲で多少の重複がみられるが、ノロが公的な存在で、祝母からいへ、レエの継承が決まっているのに対し、ユタは民間の祝行者でシャーマンの機能を顕著に持つ祝行者である。

『東洋文化大辞典』によれば、ユタには「ユタ」として、まず本人が病氣（巫病）になること

## ○保曾奴加奈之

一名喚、タ



ら始まる。この病氣を別のユタが、「神を拝め」という神からの知らせである、と判断すると、一定の儀式を行うことになる。ユタになるには、このような巫病の発現から成巫式への段階を順序よく行っていく。

成巫式を指導するのは親ユタで、親ユタの指示に従って高踏を前にススキの束を手にして神がかりになる。神がかりというのは、精神状態が一種の高揚を示して神の声を聞いたりすることをいう。

成巫式を無事に終了したユタのなかで、霊力の高いユタには、人々が卜占の依頼、口寄せなどの依頼に訪れる。



○保曾双加奈之

一名奥多

